

令和6年度第5回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

日 時	令和7年1月23日(木) 15:30~17:00
場 所	伊勢市健康福祉ステーション7階 会議室1
出席委員	中條委員、秋山委員、花田委員、田口委員、中北委員、濱口委員、前島委員、竹内委員、山本委員、伊藤委員、案浦委員、北川委員、三宅委員、前田委員、大井戸委員
事 務 局	〔健康福祉部〕 次長、子育て応援課長、同子育て応援係長、同こども育成係長、同主事2名、保育課長、同保育係長、同施設運営係長、福祉総合支援センター長、同こども家庭相談係長、健康課長、同母子保健係長、生活支援課長、こども発達支援室長 〔教育委員会事務局〕 教育総務課長、学校教育課副参事、社会教育課長、教育研究所長
傍 聴 者	2名
資 料	資料1 「伊勢市こども計画」(案)パブリックコメント結果の報告及び対応について 資料2-1 伊勢市こども計画(案) 資料2-2 伊勢市こども計画(最終案)策定概要 資料3 伊勢市こども計画に基づき実施する主な施設整備事業(案) 資料4 利用定員を変更する特定教育・保育施設

議 題

- (1) 「伊勢市こども計画」(案)パブリックコメント結果の報告及び対応について
- (2) 「伊勢市こども計画」(案)について
- (3) 伊勢市こども計画別冊(施設整備事業関係)について
- (4) (特定)教育・保育施設の利用定員の変更について
- (5) その他

・事務局より会議公開の説明、資料確認、会議成立の報告

【事務局より】

議題(1)について説明(資料1)

(「●」は委員意見、「(委)」は意見に関する委員の意見、「→」は事務局回答を表す)

●マイナ保険証の運用が始まった。出生後すぐの赤ちゃんはマイナンバーカードを持っていないが、代わりに親のマイナンバーカードで手続きはできるのか。

(委)出生の届出をした後、こどものマイナンバーカードやこども医療費助成の手続きをしていただく。児童手当の手続きは、親のマイナンバーカードでオンライン申請できる。

(委)こども医療費助成の手続きが煩雑だと聞いたがどうか。

→(協会けんぽなどの加入者は、)こどもの健康保険証を勤務先で作っていただく必要があり、健康保険証が揃わないとこども医療費助成の手続きは完了しない。

(委)健康保険の手続きに数日かかるのであれば、医療機関としては、こども医療費(証書)の番号だけでも早めに知らせてもらえるとありがたい。出生届と健康保険関連の手続きはワンストップにはできていないが、手続きに何回も市役所へ行くのは親の負担となると思う。

→ご負担をかけているが、現在のところワンストップで手続きはできない。

●No.6について、地域の方との交流を通じた地域学習とあるが、お木曳行事への参加意義について、見解を伺いたい。

→こどもが伊勢市で育っていく中で、地域の方と一緒に過ごすことや地域について学ぶことは、学校教育にとって非常に大事なことと認識している。お木曳行事に限らず、地域の方の力を借りながら地域学習に積極的に取り組んでいる。

(委)行事参加をすることで、どのようなこどもを育てたいかという目的などはあるのか。

→こども計画(案)54ページの「郷土教育の推進」に記載しているとおりである。

●No.7について、「学びの保証」は「保障」の間違いではないのか。

→ご意見を原文のまま記載したものであるので、修正したい。

(委)No.10の「校支援」とは何かと思われる方もいると思うが、これは保護者連絡メールなどの「校務支援システム」の略称である。間違いではないがかっこ書きで補足してはどうか。

→そのように修正する。

●No.5について、幼稚園などが市内の学校と連携して必要な支援体制を整えていると回答され

ているが、市民からは子育てそのものや家庭の問題に関しての適切な相談先が分からないという疑問や不安が示されているのではないかと。市民が適切な支援を受けられるように、具体的な相談先を明確に周知する必要があると思う。

(委)数多くの相談先を記載するとわかりにくいので、福祉総合支援センターを記載してはどうか。
→「どの困り事」という部分が読み取れないところもあった。相談する場所が様々あるので、代表的なところを回答する方向で見直したい。

【事務局より】

議題(2)について説明(資料2-1、2-2)

●こどもが学校に通えない問題が全国的に増えている現状がある。こどもが小さい時からどのように支援を受けてきたかが重要であり、問題が大きくなる前に支援体制や環境面での対策が必要だと思う。計画には、こうした支援や環境について明確に示されていないと感じる。

(委)乳児訪問や乳幼児健診などの機会を通じ、こどもやご家庭に寄り添い、ライフステージに応じた支援に取り組む必要がある。

(委)子育て支援センターが充実し、保育所も整備され、保育環境は良くなったと感じる。ただ、こどもたちが地域の大人と関わりながら育てる居場所などがあると良い。小俣や朝熊に素晴らしい公園が整備されたが、夏の暑い時期に対応できる室内の遊び場の充実など、こどもの成長を支える取組を進めてもらいたい。

(委)各委員の様々な活動と協働し、地域全体でこどもを育て、保護者を支える環境づくりに取り組んでいきたい。

(委)こども計画では、若者への支援を取り入れて、次の子育て世代を支える政策や支援の充実を目指している。また、計画作成においては、市の複数の部署が連携し意見を共有することで、一体的な支援体制を作り上げている。今後、一連の政策の流れが見えてくることで、充実した計画になるものと期待している。

●96ページ(16)親子関係形成支援事業について、日本では一度分離した親子を再統合する支援がまだできていない。その支援を行う職員を育成するのは重要であるが、アドバイスだけでは効果が低く、欧米で広く行われるピアカウンセリング(同じような立場や悩みを抱えた人たちが集まって、同じ仲間として相談し合い、仲間同士で支え合うことを目的としたカウンセリングのこと)の導入が効果的だと思う。

→今年度、三重県でトレーナーを養成する「イライラしない子育て講座(CPA)」が開催され、当市からも保健師1名が受講した。この講座は、手が出してしまう保護者に、コミュニケーション力を高めることで親子がうまく付き合えるよう職員が働きかけるという内容である。市内にある児童

家庭支援センターわかぎでは、この講座を誰でも無料で受講できるため、今後も周知に協力していきたい。

(委)子育てのアドバイスはとても難しい。保護者が気にしていることを「そんなに叱ってはだめ」「この方がいい」と指摘してしまうと保護者を傷つける可能性がある。

(委)事業の説明にある「アドバイス」とは、保護者への直接的な助言だけでなく、ピアカウンセリングなどの企画運営なども含めているのか。

→ピアカウンセリングやグループでの開催についても、関係機関と連携し取組を進めていきたい。

→事業の記載の仕方を、実際の事例も含めたような、分かりやすい表現に修正する。

●市長部局や教育委員会など、どの部署が計画に関与しているのかを明確化するために、最初に体系図的なもの示してはどうか。

(委)各部局縦割りではなくオール伊勢市で取り組んでいるところを示してはどうか。そうすることで、関連する部署がつながり窓口が広がる可能性があると思う。

(委)市では、孤独・孤立対策という視点で「つながりサポートリスト」を作成しており、相談支援を行い、つなげるという体制がある。

→意見を踏まえて、修正を検討したい。

【事務局より】

議題(3)について説明(資料3)

意見なし

【事務局より】

議題(4)について説明(資料4)

●利用定員の減少は実態に即してということなので、待機児童が出ることはないという理解でよいか。

→入所希望と比べ、利用定員は減少後でも余裕があるので、待機児童が発生するといったことではない。

【事務局より】

議題(5)について説明、次回の開催予定等

本日、審議していただいた計画(案)について、委員のご意見を踏まえて修正し、会長に最終確認していただいた後、市長へ答申する旨を委員にご了承いただく。